

## ミャンマー、フィリピンへのスタディツアーの実施

プロジェクトでは、①地方行政職員の水利組織・農家に対するサポート体制および良好な関係構築、②水利組織の組織力強化、についてミャンマー、フィリピンの優良事例を学ぶため、8月14日～23日の間、スタディツアーを実施しました。



### ミャンマー訪問先データ(モデルサイトのみ)

灌漑面積 : 約 1,800ha  
受益農家 : 約 950 戸  
灌漑施設 : ダム(灌漑)、頭首工、  
幹線・支線水路  
主要作物 : コメ  
水利組織数: 5 組織 (2017～2018 年設立)

### フィリピン訪問先データ

灌漑面積 : 約 87,000ha  
受益農家 : 約 62,000 戸  
灌漑施設 : ダム(灌漑・水力発電)、頭首工、  
幹線・支線水路  
主要作物 : コメ  
水利組織数: 360 組織 (1970 年代設立)

## 参加者からの報告



### 1) ケオウドン・スリヤー (サバナケット県農林局計画課長)

今回のスタディツアーでは、行政職員が水利組織・農家をどのようにサポートしているのか、どのように信頼関係を構築しているのかなどについて調査して来ました。

行政職員にとって重要なポイントだと感じたのは、「灌漑や栽培などの具体的な知識・技術」「農家とのコミュニケーション能力」でした。シンプルですが実践するのは非常に難しいものです。私達のプロジェクトでもこの考え方を浸透させることが重要と思っています。



水利組織との意見交換<ミャンマー>



## 2) ポンティープ・サヤチャック (サバナケット県農林局計画課)

訪問先の行政職員と農家はとても良好な関係で、行政職員は、非常に積極的で現場にも良く出かけ、農家の声を常に尊重しながら必要なサポートをしています。これが良好な関係構築のポイントなのだと感じました。また、行政職員、水利組織、農家共にそれぞれの役割や将来に向けたビジョンなどを十分理解していました。協力関係を築くためには自分たちの仕事をしっかりと理解しておくことが必要だと感じました。

## 3) ウェッサダー・チャンタウォンサー (サイプリ郡農林事務所灌漑セクション)

ミャンマーでは、灌漑スタッフは水路の維持管理だけでなく栽培技術に関するサポートも行っています。政府職員は農家の意見を聞いた上でアドバイスをしていました。

フィリピンでは関係セクションが協力して農家の収入向上に取り組んでいます。行政のサポートのおかげで水利組織が農業機械のリース、種子・肥料の貸付、緑豆の栽培推進など、農家の収入向上のための色々な取り組みが行われていて、行政職員の意識改革が非常に重要だと感じました。



行政職員、水利組織との意見交換  
＜フィリピン＞



水利組織訪問と意見交換  
＜フィリピン＞



幹線用水路(政府が管理)  
＜ミャンマー＞



支線用水路(水利組織が管理)  
＜ミャンマー＞



灌漑・発電用ダム(売電収入は灌漑予算として使用)   
＜フィリピン＞



水利組織の財源となる養殖池  
＜フィリピン＞

今回のスタディツアーで得られた知見は、後日取りまとめてプロジェクトが作成するガイドブックに掲載する予定です。

## 次号予告

灌漑スタッフ(OM ユニット、DAFO)の灌漑ポンプ用モーターに関する知識・技術を強化するため、モーター修理会社に1週間通い、勉強してきました。次号でその内容を報告します。